

1.授業コード(ナンバリング)	2.科目名			学校経営論	3.単位数	2
4. 授業担当教員	平井正朗					
5. 授業科目の区分	教育の基礎的理解に関する科目 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	※
8. 履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	2年～	
10. 取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 中学(英語) 中学(社会) 高校(情報)			11.先修条件		
12. 研究室	※			13.電話番号	※	
14. E-Mail Address	※			15. 授業形態	講義、単独	
16.履修制限						
17. 本授業の概要と学修目標	【授業の概要】 教師の仕事の中心は授業である。その授業は学校経営の枠内で行われている。学校経営の学びを通して、教育や学校の在り方を理解し、学校組織の一員として協働することの重要性を学ぶ。 教職経験を積み重ねると校内での役割や仕事量が多くなり、スクールリーダーとして期待される。学校経営の授業を通して、スクールリーダーとしての在り方、学校経営の在り方について学ぶ。 【学修目標】 本科目の学習目標は以下である。 ①学校経営について考えられる。 ②良い学校づくりについて考えられる。 ③学校で起こる問題を学校経営の視点から考えることができる。 ④グループワークを通して、メンバーの発言を整理して、関連づけた発言ができるようになる。 ⑤自分自身の学んだ結果を評価し、次の学びに生かせるようになる。					
18.目標とするKUIS学修ベンチマーク	自律できる人間になる		社会に貢献できる人間になる		心豊かな世界市民になる	
	知的 好奇心	自律性	規範 順守	社会的 能動性	多様 性解	共感的 態度
	-	-	-	レ ベ ル2	-	-
19.ベンチマークとの対応	問題解決能力を身につける		問題解決能力を身につける		コミュニケーション能力を身につける	
	情報 収集・ 活用力	問題 発見力	論理的 思考/ 判断力	計画・ 実行力	自己 表現力	意見 交換・ 調整力
	-	レ ベ ル2	-	-	-	-

	本授業に沿って言うと、学校経営への認識を深め、学校経営のあり方についての考え方を自分なりに持つことを期待する。 ②大項目「社会に貢献できる人間になる」 中項目「社会的能動性 レベル2〈集団の中で、他のメンバーと協働しながら行動できる。〉」 学校には、期限が限定された解決を図らなければならない課題がいろいろと起こる。教職員が協働して課題の解決に当たらなければならない。一人一人の教師が、課題解決に向けての自分の役割を自覚しながら協働する資質が重要となる。そのような資質が、本授業を通して培うことが出来ればと考える。	
20. 教科書	教科書は使用しません。各授業時に教材としてプリントと資料を配布するので、それをきちんとファイルすることが必要です。	
21. 参考書	小島弘道 編 教師教育テキストシリーズ8 学校経営 学文社 2009/5/19	
22. 成績評価の方法(中間評価、最終評価の方法等)	① 学校経営に関する事例へのコメント10回×3=30% ② グループワークの感想文1回×4=4% ③ 学校評価票1回×6=6% ④ 中間課題1回×20=20% ⑤ 最終課題1回×40=40% 最終評価は、①から⑤の合計とし、100点満点とする。	
23. 受講生へのメッセージ	現在の学校には、地域社会に開かれた特色ある学校づくりが求められています。優秀なスポーツ選手を集めた学校、有名大学への入学率を高めるために成績優秀者を集めた高校等々、いろいろな学校が創られています。みなさんと一緒に地域社会に開かれた特色ある学校づくりを考えてみようではないですか。	
24. オフィスアワー	金曜日4限	
25. 授業回数	26. 授業内容	27. アサインメント(宿題)など ○教室外学修(予習、復習)/◎教室外グループ学修/★提出物/◆持参物◆
【1回目】	・ オリエンテーション (本授業の目標、内容、成績評価、授業を受ける上での留意点) ・ 学校に求められていること ・ 学校経営を学ぶ必要性について	
【2回目】	公教育の経営 プリント pp1～7 ・ 学校教育への考え方、公教育の実施原則、教育委員会の管理権と自己裁量権、学校に対する管理権の改革など学校経営・運営などにかかわる内容について学ぶ。 ○ 学校で起こった事例①へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。 ○ 学校経営論のプリントを配布する。このプリントをファイルし、次回より持参すること。	
【3回目】	学校づくりと学校経営 プリント pp8～14 ・ 学校力の構築、学校づくりと経営、学校の意味形成と運営組織、学校教育の変化と学校づくりについて継続的な流れを含めて学ぶ。 ○ 学校で起こった事例②へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。この提出をもって出席とする。	

【4回目】	学校づくりと法の関係 プリント pp15～20 ・ 学校の規範法化、学校の経営法化、学校の私法化について学ぶ。 ○ 学校で起こった事例③へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。この提出をもって出席とする。	
【5回目】	グループワーク テーマ「開かれた学校づくり」 ・ グループに分かれ、テーマについてのグループ討議を行い、代表者が発表。 ○ グループ討議の感想文を提出する。この提出をもって出席とする。	
【6回目】	生徒指導と学校づくり プリント pp25～32 ・ 生徒指導体制、支援体制について学び、兵庫県内における支援機関について考える。 ○ 学校で起こった事例⑤へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。この提出をもって出席とする。	
【7回目】	学級・ホームルーム経営 プリント pp32～37 ・ 学級の歴史、学級の特質、学級経営の理論と実際、学級経営と学級担任について学ぶ。 ○ 学校で起こった事例⑥へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。この提出をもって出席とする。 ○ 中間課題 課題のテーマと提出日は、授業終了時に示す。	
【8回目】	学校組織における教師のストレス プリント pp38～44 ・ 教師のストレス、教育相談システムの構築、管理職のストレスについて学ぶことで組織の運営における望むべき形を学ぶ。 ・ 学校で起こった事例⑦へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。 この提出をもって出席とする。	中間課題の作成(60分)
【9回目】	学校の危機管理 プリント pp48～53 ・ 危機管理について学び、学校安全や不審者への対応について考える。 ○ 学校で起こった事例⑧へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。 この提出をもって出席とする。	★中間課題の提出
【10回目】	学校におけるミドルリーダーの役割 プリント pp54～58 ・ ミドルリーダーの役割、ミドルリーダーの育成と今後の課題、可能性について学ぶ。 ○ 学校で起こった事例⑨へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。この提出をもって出席とする。	
【11回目】	カリキュラムを核にした協働 ・ カリキュラム・マネジメントとその側面、カリキュラム・マネジメントの機能化について学ぶ。 ○ 学校で起こった事例④へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。この提出をもって出席とする。	

【12回目】	学校づくりと保護者・地域住民 プリント pp58～63 ○ グループ討議の結果から「開かれた学校づくり」について考える。開かれた学校づくりの在り方について学ぶ。	
【13回目】	◎ グループワーク 学校評価と学校づくり プリント pp 64～66 ・ 学校評価の制度化、学校評価の方法、学校づくりに生かす学校評価の在り方について学ぶ。 ・ グループワーク グループに分かれ学校評価票を作成し、代表者が発表。 ○ グループで作成した学校評価票を各自が提出する。	
【14回目】	日本における学校について概観 ・ 日本における公立学校を概観し、種々の私立学校について「学校経営」の視点から考察する。 ・ 日本における学校の危機管理の性質について「学校経営」の視点から考察する。 ○ 学校で起こった事例⑩へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。 この提出をもって出席とする。	最終課題の作成(120分)
【15回目】	グループ面談 ・ 前回の講義から学校安全の必要性について面談時に説明してもらう。 ・ 授業を振り返って 自己評価表への記入 グループ面談を実施し、授業の在り方や一人一人の授業の参加度等 についての意見交換を行う。 最終課題の受け取り、出欠の確認	★最終課題の提出

19.ベンチマークとの対応	1: 知的好奇心(レベル 2: 知りえた内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心を持つことができる) 本授業に沿って言う、教育制度に関する基本的な知識を踏まえて、教育制度の背景にある問題に関心を持って調べたり、教育制度自体の妥当性に疑問を持って考察していく姿勢をもつことができるということです。教育制度は絶対的に正しいものとして存在するわけではありません。実際には何らかの問題を含みながら運営されている場合が多いともいえるでしょう。授業で学んだ知識を知識として理解するだけではなく、現実の教育制度をよりよいものに改善していこうと考え、行動する姿勢が重要です。 2: 自律性(レベル 2: 与えられた課題や自分で設定した目標について、自分なりにやり遂げる方法を見つけて取り組むことができる) 本授業に沿って言う、基本的な知識が修得できているかを確認するふりかえりを積極的に活用し、授業時間外に予習・復習を継続的にやり遂げていくということです。このような継続的な努力で修得した知識は、教育制度の課題を的確に把握した上で、望ましい教育制度のあり方を考察していく際の確固たる土台となります。	
	20. 教科書	
	21. 参考書	
	22. 成績評価の方法(中間評価、最終評価の方法等)	
	23. 受講生へのメッセージ	
24. オフィスアワー		
25.授業回数	26.授業内容	27.アサインメント(宿題)など ○教室外学修(予習、復習)/◎教室外グループ学修/★提出物/◆持参物◆
【第 1 回】	・オリエンテーション(本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点、学校をめぐる動向と教育制度のあり方について)	○次回の予習として、参考書を活用して教育制度の概要について学ぶ。(120 分)
【第 2 回】	・教育制度とは何か(制度の基盤・原理の把握)	○配付資料に基づいて、第 2 回の復習を行う。(60 分) ○次回の予習として、参考書を活用して教育制度の基本原則について学ぶ。(60 分)
【第 3 回】	・教育制度の基本原則(教育制度の基本原則について資料・テキストを通じて説明) ・ふりかえり	○配付資料に基づいて、第 3 回の復習を行う。(60 分) ○次回の予習として、参考書を活用して教育体系の基本問題について学ぶ。(60 分)
【第 4 回】	・教育体系の基本問題(制度を支える関連法規から基本的	○配付資料に基づい

	な問題を把握) ・ふりかえり	て、第4回の復習を行い、チェックテストに備える。(60分) ○次回の予習として、参考書を活用して生涯学習とその体系について学ぶ。(60分)
【第5回】	・生涯学習とその体系(教育制度の法規構成) ・ふりかえり	○配付資料に基づいて、第5回の復習を行う。(60分) ○次回の予習として、参考書を活用して教育行財政制度について学ぶ。(60分)
【第6回】	・教育行財政制度1(教育行財政制度に関する教育制度の基礎知識の説明)	○配付資料に基づいて、第6回の復習を行う。(60分) ○次回の予習として、参考書を活用して教育行財政制度について学ぶ。(60分)
【第7回】	・教育行財政制度2.(教育行財政制度の改善・改革案を提案) ・ふりかえり	○配付資料に基づいて、第7回の復習を行う。(60分) ○次回の予習として、参考書を活用して教員制度について学ぶ。(60分)
【第8回】	・教員制度(学校現場に関する教育制度を把握) ・ふりかえり	○配付資料に基づいて、これまでの復習を行い、中間課題に備える。(120分)
【第9回】	・中間課題と解説・講評 ・これまでの全体的な内容のふりかえり	○解説・講評を通して、これまでの復習を行う。(60分) ○次回の予習として、参考書を活用して学校経営組織1について学ぶ。(60分)
【第10回】	・学校経営組織1(学校経営とは何か、学校の組織、社会地域との協働) ・ふりかえり	○配付資料に基づいて、第10回の復習を行う。(60分) ○次回の予習として、参考書を活用して学校経営組織2について学ぶ。(60分)
【第11回】	・学校経営組織2(学校評価、学校・家庭・地域の連携、生徒指導) ・ふりかえり	○配付資料に基づいて、第11回の復習を行う。(60分) ○次回の予習として、参考書を活用して乳幼児期の教育制度について学ぶ。(60分)
【第12回】	・乳幼児期の教育制度(年代別の教育制度の特徴・相違を	○配付資料に基づい

	把握) ・ふりかえり	て、第 12 回の復習を行う。(60 分) ○次回の予習として、参考書を活用して児童期の教育制度について学ぶ。(60 分)
【第 13 回】	・児童期の教育制度(年代別の教育制度の特徴・相違を把握) ・ふりかえり	○配付資料に基づいて、第 13 回の復習を行う。(60 分) ○次回の予習として、参考書を活用して特別支援教育制度について学ぶ。(60 分)
【第 14 回】	・学校安全制度(学校安全とは、学校保健安全法に基づく、危機管理の具体的取組の理解) ・生活安全(学校を取り巻く安全管理、安全教育の把握)	○配付資料や参考書に基づいて、これまでの復習を行い、総括試験に備える。(120 分)
【第 15 回】	・総括試験の結果確認と振り返り ・教育制度の総合的なまとめ	○これまでの総復習(120 分)

	け入れることができる。
20. 教科書	「コンパクト新心理学ライブラリ 教育心理学第2版」 多鹿 秀継 サイエンス社 1600 円
21. 参考書	なし
22. 成績評価の方法(中間評価、最終評価の方法等)	ワークシート 5 点×10 回 学期の主題授業内レポート 20 点 いじめっ子はなぜそのような行動をとると考えるか。どうすればいじめる側の行動を抑止できるか。授業内レポート 800 字程度 総括試験 30 点
23. 受講生へのメッセージ	
24. オフィスアワー	

25.授業回数	26.授業内容	27.アサインメント(宿題)など ○教室外学修(予習、復習)/◎教室外グループ学修/★提出物/◆持参物◆
第1回	オリエンテーション 授業の進め方について	
第2回	教育心理学とは何か 学校教育、教育基本法、生きる力、社会人基礎力、教育心理学で扱う領域グループワーク課題:これまでの学校での経験から教育心理学の目的とは何かを導くことができる。	○ワークシートの完成と復習(120分)
第3回	子どもの発達について考える1 乳幼児期から青年期における発達のプロセス(運動、言語、認知、社会性)	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第4回	子どもの発達について考える2 代表的な発達理論(ピアジェ、ヴィゴツキー、エリクソン)による発達の理解、発達障害の理解(知能・発達検査からその特徴を理解する) グループワーク課題:一斉授業のメリットとデメリットから、子どもの個性に応じた授業を考える。	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第5回	知識とは何か 表象、宣言的知識、手続き的知識、メタ認知の知識	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第6回	学習の動機づけ1 外発的動機づけ、賞罰による訓練方法 グループワーク課題:これまでに経験した「報酬」と「罰」から外発的動機づけについて考える。	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第7回	学習の動機づけ2 内発的動機づけ、原因帰属 アクティブラーニング:自分の原因帰属の特徴を知る	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第8回	どのように教えるか1 行動主義心理学、プログラム学習、完全習得学習、記憶の	○ワークシートの完成と復習(120分)

	情報処理過程 アクティブラーニング:情報処理量の実験	★前回ワークシートの提出
第 9 回	どのように教えるか2 認知心理学、発見学習、有意味受容学習	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第 10 回	いじめはなぜ起こるのか1 いじめ、暴力、相談体制	★前回ワークシートの提出
第 11 回	いじめはなぜ起こるのか2 いじめの発生原因、力とその資源、いじめの特徴、いじめを助長するもの	○ワークシートの完成と復習(120分)
第 12 回	授業内レポート:発達の特徴に応じた授業のあり方について提案する。	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第 13 回	生きる力を育むには？ ゆとり教育、PISA、フィンランドの教育	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第 14 回	生きる力を育むには？ 教育と自己概念、自己形成 グループワーク課題:生きる力をはぐぐむために教育に必要な要素を考える	○ワークシートの完成と復習(120分)
第 15 回	総括	

1.授業コード(ナンバリング)				2.科目名	教育・学校心理学	3.単位数	2					
4. 授業担当教員	田中亜裕子											
5. 授業科目の区分	基幹科目 教育の基礎的理解に関する科目 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	※				
8. 履修可能な専攻	中高教職				9.履修学年	2年～						
10. 取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 中学(英語) 中学(社会) 高校(情報) 公認心理師受験資格				11.先修条件							
12. 研究室	※				13.電話番号	※						
14. E-Mail Address	※				15. 授業形態	講義 単独						
16.履修制限												
17. 本授業の概要と学修目標	教育心理学、八たる心理学の意義および課題について考察した上で、知識の獲得過程、学習の動機づけ、学習の転移、個性・個人差と授業、学習指導について学ぶ。そして、教育心理学的なものの方・考え方を養った上で、教育実践に役立つスキルを習得することをねらいとする。 【対応する学科の学修目標】 ①「人間の心理的・社会的問題の実証的把握 レベル 2<与えられた課題に対し、科学的なデータ収集を設計・実施できる。具体的には、授業内レポートで、テーマについての客観的で妥当性のある情報を収集し、情報を根拠に説明ができる。 【学期の主題:2年春学期<安全の価値>との関連】 教育現場で問題となる「いじめ」を取り上げ、いじめる側がなぜそのような行動に至るのかを考えることで、いじめを抑止する策を考える。											
18.目標とするKUIS学修ベンチマーク	自律できる人間になる		社会に貢献できる人間になる		心豊かな世界市民になる		問題解決能力を身につける		コミュニケーション能力を身につける			
	知的好奇心	自律性	規範順守	社会的能動性	多様性理解	共感的態度	情報収集・活用能力	問題発見力	論理的思考・判断力	計画・実行力	自己表現力	意見交換・調整力
	レベル 2				レベル 2							
19.ベンチマークとの対応	①大項目「自律できる人間になる」 中項目「知的好奇心 レベル 2<知りえた内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心を持つことができる>」 具体的には学校に代表される教育現場における人間の行動とその心理を学習することによって、教育心理学への知的好奇心を高めることができる。 ②大項目「心豊かな世界市民になる」 中項目「多様性理解 レベル 2<自分の価値観と異なる価値観、双方の社会的・文化的背景に関心をもち、違いがあることを受け入れることができる>」 具体的には、教育現場における諸問題の事例を取り上げることによって、教育											

	心理学的な客観性のあるものの見方を身につけ、自分の価値観との違いを受け入れることができる。
20. 教科書	「コンパクト新心理学ライブラリ 教育心理学第2版」 多鹿 秀継 サイエンス社 1600 円
21. 参考書	なし
22. 成績評価の方法(中間評価、最終評価の方法等)	ワークシート 5 点×10 回 学期の主題授業内レポート 20 点 いじめっ子はなぜそのような行動をとると考えるか。どうすればいじめる側の行動を抑止できるか。授業内レポート 800 字程度 総括試験 30 点
23. 受講生へのメッセージ	
24. オフィスアワー	

25.授業回数	26.授業内容	27.アサインメント(宿題)など ○教室外学修(予習、復習)/◎教室外グループ学修/★提出物/◆持参物◆
第1回	オリエンテーション 授業の進め方について	
第2回	教育心理学、発達心理学とは何か 学校教育、教育基本法、生きる力、社会人基礎力、教育心理学で扱う領域グループワーク課題:これまでの学校での経験から教育心理学の目的とは何かを導くことができる。	○ワークシートの完成と復習(120分)
第3回	子どもの発達について考える1 乳幼児期から青年期における発達のプロセス(運動、言語、認知、社会性)	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第4回	子どもの発達について考える2 代表的な発達理論(ピアジェ、ヴィゴツキー、エリクソン)による発達の理解、発達障害の理解(知能・発達検査からその特徴を理解する) グループワーク課題:一斉授業のメリットとデメリットから、子どもの個性に応じた授業を考える。	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第5回	知識とは何か 表象、宣言的知識、手続き的知識、メタ認知の知識	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第6回	学習の動機づけ1 外発的動機づけ、賞罰による訓練方法 グループワーク課題:これまでに経験した「報酬」と「罰」から外発的動機づけについて考える。	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第7回	学習の動機づけ2 内発的動機づけ、原因帰属 アクティブラーニング:自分の原因帰属の特徴を知る	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第8回	どのように教えるか1	○ワークシートの完成

	行動主義心理学、プログラム学習、完全習得学習、記憶の情報処理過程 アクティブラーニング:情報処理量の実験	と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第9回	どのように教えるか2 認知心理学、発見学習、有意味受容学習	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第10回	いじめはなぜ起こるのか1 いじめ、暴力、相談体制	★前回ワークシートの提出
第11回	いじめはなぜ起こるのか2 いじめの発生原因、力とその資源、いじめの特徴、いじめを助長するもの	○ワークシートの完成と復習(120分)
第12回	授業内レポート:発達の特徴に応じた授業のあり方について提案する。	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第13回	生きる力を育むには？ ゆとり教育、PISA、フィンランドの教育	○ワークシートの完成と復習(120分) ★前回ワークシートの提出
第14回	生きる力を育むには？ 教育と自己概念、自己形成 グループワーク課題:生きる力をはぐぐむために教育に必要な要素を考える	○ワークシートの完成と復習(120分)
第15回	総括	

1.授業コード(ナンバリング)				2.科目名	発達心理学		3.単位数	2	
4. 授業担当教員	田中亜裕子								
5. 授業科目の区分	基幹科目 教育の基礎的理解に関する科目 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	※
8. 履修可能な専攻					9.履修学年	2年～			
10. 取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 認定心理士 保育士 幼稚園一種 高校(情報)				11.先修条件				
12. 研究室	※				13.電話番号	※			
14. E-Mail Address	※				15. 授業形態	講義 単独			
16.履修制限									
17. 本授業の概要と学修目標	【概要】 この科目では、生涯発達心理学の立場(人間は生涯を通して成長し続けるという立場)から、胎児期、新生児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の過程において、各発達期の特徴と援助のあり方を理解することを目的とする。とくに乳幼児期における知能、気質、感情の心理学的理解を通して、子どもの発達支援に必要な知識の習得をねらいとする。 【この科目の到達目標】 ①各発達期における運動発達、言語発達、認知発達、社会性の発達について、具体的な内容を説明できる。 ②幼児、児童の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用と、発達に関する代表的理論を踏まえ、子どもの発達支援に必要な知識とその意義を説明できる。 ③幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識、発達を踏まえた学習を支える指導について理解する。 【対応する学科の学修目標】 ①「人間の心理を客観的に理解できる:心理学の概念と専門用語が理解できる」(レベル2) 具体的には、授業で取り上げる心理学の概念や専門用語について、グループワークで自らの言葉でわかりやすく説明できる 【学期の主題:2年秋学期〈人間にとっての安心〉との関連】 アタッチメントについて取り上げ、養育者との間に形成された心理的絆が発達的にどのような意味を持つかを考える								
18.目標とするKUIS学修ベンチマーク	自律できる人間になる		社会に貢献できる人間になる		心豊かな世界市民になる		問題解決能力を身につける		コミュニケーション能力を身につける
	知的 好奇心	自律性	規範 順守	社会的 能動性	多様 性解	共感的 態度	情報 収集・ 活用力	問題 発見力	論理的 思考/ 判断力
							計画・ 実行力	自己 表現力	意見 交換・ 調整力

	新生児期、乳児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ	★前回ワークシートの提出
第 7 回	幼児期の育ち 1 幼児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。	○ワークシートの完成と復習(120 分) ★前回ワークシートの提出
第 8 回	幼児期の育ち 2 幼児期の身体、心理、社会的発達を踏まえ、学習活動を支える指導について学ぶ。	○ワークシートの完成と復習(120 分) ★前回ワークシートの提出
第 9 回	児童期の発達 1 児童期の身体、心理、社会的発達の基礎について学ぶ。	○ワークシートの完成と復習(120 分) ★前回ワークシートの提出
第 10 回	児童期の発達 2 児童期の身体、心理、社会的発達を踏まえ、学習活動を支える指導について学ぶ。	★前回ワークシートの提出
第 11 回	発達障害の理解と対応 知能検査について知り、発達障害の理解と対応を学ぶ。	○ワークシートの完成と復習(120 分)
第 12 回	発達障害と子ども臨床 発達障害の理解と対応、指導を学ぶ。また、子ども臨床の基礎的事項について学ぶ。	○ワークシートの完成と復習(120 分) ★前回ワークシートの提出
第 13 回	青年期 青年期の発達課題と、青年期の心理発達についての学びを踏まえ、学習活動を支える指導について学ぶ。	○ワークシートの完成と復習(120 分) ★前回ワークシートの提出
第 14 回	成人期、老年期 成人、高齢者の発達課題と、社会的問題について学ぶ。	○ワークシートの完成と復習(120 分)
第 15 回	総括とまとめ(発達への理解と指導、対応。その理解)	

1.授業コード(ナンバリング)			2.科目名	特別支援教育基礎	3.単位数	1
4. 授業担当教員	梶正義					
5. 施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	※
8. 履修可能な専攻				9.履修学年	2年～	
10. 取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 中学(英語) 中学(社会) 高校(情報)			11.先修条件		
12. 研究室	※			13.電話番号	※	
14. E-Mail Address	※			15. 授業形態	講義 単独	
16.履修制限						
17. 本授業の概要と学修目標	【授業の概要】 特別支援教育の対象となる各障害の主な特性(定義・発達や認知特性、及びそれに伴う教育的ニーズなど)を概説すると共に、インクルーシブ教育の推進について講義を行う。 また、最近の教育的課題となっている発達障害(LD=学習障害、ADHD=注意欠陥多動性障害、高機能自閉症など)や障害はないが特別な支援や配慮要する児童生徒(来日・帰国した子ども・など)についても同様に概説と講義を行う。 そして、児童生徒の有する教育的ニーズ、障害に対する学校での指導体制・支援方法などについて事例を紹介しながら望ましい特別支援教育の在り方について検討を行う。 【学修目標】 ・各種障害の定義・特性等の知識を習得する。 ・特別な教育的支援を要する児童生徒の教育的ニーズを理解する。 ・学校での指導体制・支援方法などについて理解し、インクルーシブ教育を推進するための知識を習得する。					
18.目標とするKUIS学修ベンチマーク	自律できる人間になる		社会に貢献できる人間になる		心豊かな世界市民になる	
	知的 好奇心	自律性	規範 順守	社会的 能動性	多様性 理解	共感 度
	レ ベル 2				レ ベル 2	
19.ベンチマークとの対応	障害のある幼児・児童・生徒及び通常の学級に在籍する発達障害や特別の配慮を要する幼児・児童・生徒の学習上あるいは生活上の困難を理解し、個々の発達特性に基づいた教育的ニーズに応じた指導・支援方法を理解する。					
20. 教科書	毎回授業時に資料を配付する。					
21. 参考書	「障害児心理入門」井澤信三/小島道生編著(2010)ミネルヴァ書房 「インクルーシブ教育システム構築に向けた児童生徒への配慮・指導事例」国立特別支援教育研究所(2014)ジヤース教育新社					
22. 成績評価の方法(中間評価、最終評価の方法等)	定期試験(70%)・授業時のワークシート等の提出(30%)					

25.授業回数	26.授業内容	27.アサインメント(宿題)など○教室外学修(予習、復習)
第 1 回	①特別支援教育の基本的理念・制度・仕組みなど ②特別支援学校・幼小中高等学校における特別支援教育(組織と指導体制など) ③インクルーシブ教育への動向	
第 2 回	特別支援教育の基礎知識(1) 視覚障害・聴覚障害 ①定義・障害特性及びそれに伴う発達特性や認知特性 ②特別支援の方法に関する例示 ③教育的ニーズとその支援(ワーク・意見交換)	
第 3 回	特別支援教育の基礎知識(2) 知的障害 ①定義・障害特性及びそれに伴う発達特性や認知特性 ②特別支援の方法に関する例示 ③教育的ニーズとその支援(ワーク・意見交換)	
第 4 回	特別支援教育の基礎知識(3) 肢体不自由・病弱 ①定義・障害特性及びそれに伴う発達特性や認知特性 ②特別支援の方法に関する例示 ③教育的ニーズとその支援(ワーク・意見交換)	
第 5 回	特別支援教育の基礎知識(4) 情緒障害・言語障害・発達障害①LD=学習障害 ①定義・障害特性及びそれに伴う発達特性や認知特性 ②障害に応じた指導形態と自立活動(自立活動に関する支援の方法) ③教育的ニーズとその支援(ワーク・意見交換)	
第 6 回	特別支援教育の基礎知識(5) 発達障害②ADHD=注意欠陥多動性障害・③高機能自閉症 ①定義・障害特性及びそれに伴う発達特性や認知特性 ②障害に応じた指導形態と自立活動(通級による指導の位置づけ) ③教育的ニーズとその支援(ワーク・意見交換)	
第 7 回	特別支援教育の基礎知識(6) 来日外国人児童生徒と帰国した児童生徒、LGBTの児童生徒 ①来日外国人児童生徒と帰国した児童生徒、LGBTの児童生徒の現状 ②日本語指導の現状及び教育的ニーズとその支援(ワーク・意見交換)	
第8回	特別支援教育の基礎知識(7) 個別の教育支援計画と個別の指導計画 ①学習指導要領への位置づけ、作成の意義・作成手順 ②作成の意義・作成手順(校内委員会・特別支援コーディネータ等の役割と機能) ③ インクルーシブ教育	

1.授業コード(ナンバリング)				2.科目名	教育課程論	3.単位数	2				
4. 授業担当教員	廣岡義之										
5. 授業科目の区分	中高教職 教育の基礎的理解に関する科目 ・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメント含む。)			6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	※			
8. 履修可能な専攻	中高教職				9.履修学年	2年～					
10. 取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 中学(英語) 中学(社会) 高校(情報)				11.先修条件						
12. 研究室	※				13.電話番号	※					
14. E-Mail Address	※				15. 授業形態	講義 単独					
16.履修制限	教職課程履修者に限定										
17. 本授業の概要と学修目標	【授業の概要】 学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 【学修目標】 (1)教育課程の意義:学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。 (1-1) 学習指導要領の性格及び位置づけ並びに教育課程編成の目的を理解している。 (1-2) 学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 (1-3) 教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。 (2)教育課程の編成の方法:教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 (2-1)教育課程編成の基本原則を理解している。 (2-2)教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 (2-3)単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また生徒や学校、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。 (3)カリキュラム・マネジメント:教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 (3-1)学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理科している。 (3-2)カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。										
18.目標とするKUIS学修ベンチマーク	自律できる人間になる		社会に貢献できる人間になる		心豊かな世界市民になる		コミュニケーション能力を身につける				
	知的好奇心	自律性	規範順守	社会的能動性	多様な理解	共感的態度	情報収集・活用力	問題発見力	論理的思考・判断力	計画・実行力	自己表現力

25.授業回数	26.授業内容	27.アサインメント(宿題)など ○教室外学修(予習、復習)/◎教室外グループ学修/★提出物/ ◆持参物◆
1	教育課程編成の基本原則1(PDCA サイクル論をベースにしつつ、計画の前提として目的や目標の設定が重要であることを理解する)	教育基本法と学校教育法の復習(1-2h)
2	教育課程編成の基本原則2(系統主義と経験主義の二つの考え方を理解する)	
3	学習指導要領の性格と位置づけ、教育課程編成の目的を理解する (新学習指導要領のポイントを確認する)	学習指導要領の記述に関する予習復習(1-2h)
4	学習指導要領の変遷と現代史の大きな流れ1(第二次大戦前後から昭和20年代まで。戦後復興期と新学校教育体系の確立期)	
5	学習指導要領の変遷と現代史の大きな流れ2(昭和30年代から50年代。高度経済成長と教育内容の現代化)	同上
6	学習指導要領の変遷と現代史の大きな流れ3(昭和50年代から平成へ。経済の低成長・安定期、ゆとり教育と週5日制、学力低下論争)	同上
7	学習指導要領の変遷と現代史の大きな流れ4(現在から未来へ。急激な社会変化と脱ゆとり路線、能力観の再構築と現代的な課題。教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解する)	同上
8	前半の授業内容の振り返りとまとめ 中間試験(学習指導要領の要点に関する基礎知識を問う)	
9	中学校の時間割編成(シミュレーション・グループワーク。標準授業時数の考え方、教科の配列に関する配慮事項についての要点を理解する) 小学校の標準授業時数等についても合わせて理解する。	同上
10	授業計画の立て方(年間授業計画、単元設定、評価の観点、単元ごとの指導案作成、基本的な指導案の構造について理解し、事例も参考にしながら、実際に指導案を作成する)	◎◎総合的な学習の時間に関する授業計画を立てる
11	高等学校の教科科目構成、必修要件について。自分の経験も材料にして討論し、選択パターンの多様性について考える。	
12	総合的な学習の時間を想定した授業計画を発表する(第10回で分析した事例も参考に、単元・学期・学年をまたいだ長期的視野から、生徒や学校、地域の実態を踏めた教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解する)	
13	カリキュラム・マネジメントとは何か(その意義と重要性を理解する)	
14	カリキュラム評価とは何か(その基本的な考え方を理解する)	
15	後半の授業内容の振り返りとまとめ 期末試験(授業計画の立案と評価等、より実践的なスキルの確認をするためのテスト)	

1.授業コード(ナンバリング)			2.科目名	総合的な学習の時間の指導法	3.単位数	1
4. 授業担当教員	常陰則之					
5. 授業科目の区分	基幹科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 総合的な学習(探究)の時間の指導法		6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	※
8. 履修可能な専攻				9.履修学年	2年～	
10. 取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 中学(英語) 中学(社会) 高校(情報)			11.先修条件		
12. 研究室	※			13.電話番号	※	
14. E-Mail Address	※			15. 授業形態	講義 単独	
16.履修制限						
17. 本授業の概要と学修目標	【授業の概要】 「総合的な学習の時間」は、実社会・実生活の課題を、広範な視野、多様な視点から捉え、各教科等で育まれてきた様々な事物・事象への認識・理解・思考・判断・表現・処理などの諸力を横断的に働かせながら探究し、具体的な解決や実現を目指す学びを通して、よりよい自分たちの生き方考え方行動の在り方を主体的創造的共同的に模索し続ける資質・能力の育成を目指す学習活動である。 本授業ではまず、そうした学習活動の本質的な目的・意義やそれに沿った基本的な実施要件を押さえ、それらを特徴的な実践事例や自身の学習経験・記憶などに照らし合わせることで、導入以来の成果と問題点を明らかにする。そしてその上で、あらためて元来のねらいや指針を具現化し「アクティブラーニング」として活性化していくための必須課題の重要性を理論的に理解し、指導・支援者として当該学習活動に正対していくアプローチの視座を確立すると共に、それらに対する具体的方策を実践力の基盤として獲得していく。 【学修目標】 具体的には、以下の内容の理解・修得を目指す。 ○総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割についての理解・修得(教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から)。 ○学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに、各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点についての理解・修得。 ○各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性についての、具体的な事例を通じた理解・修得。 ○主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性についての、具体的な事例を通じた理解・修得。 ○探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てについての理解・修得。 ○総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点についての理解・修得。					
18.目標とするKUIS学修ベンチマーク	自律できる人間になる	社会に貢献できる人間になる	心豊かな世界市民になる	問題解決能力を身につける	コミュニケーション能力を身につける	

	知的 好奇心	自律 性	規範 順守	社会的 能動性	多様 性解 理	共感 的態 度	情報 収集・ 活用力	問題 発見力	論理的 思考・ 判断力	計画・ 実行力	自己 表現 力	意見交 換・調 整力
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19.ベンチマークとの対応												
20. 教科書												
高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説【総合的な探究の時間編】(文部科学省) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説【総合的な学習の時間編】(文部科学省) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 高等学校編 ―総合的な学習の時間を核とした課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等向上に関する指導資料―(文部科学省、教育出版) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm												
21. 参考書												
高等学校キャリア教育の手引き(文部科学省) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1312816.htm 改訂版「命の大切さ」を実感させる教育への提言(兵庫県教育委員会) https://www.hyogo-c.ed.jp/~inochi/index.html SSH 研究開発実施報告書(兵庫県立加古川東高等学校) https://www.hyogo-c.ed.jp/~kakohigashi-hs/sciencemath_ssh.html												
22. 成績評価の方法(中間評価、最終評価の方法等)												
①適時数回提出する「講義内容総括(小レポート)」での記述内容<40%> ②各回授業での受講態度(様々なねらいや形態で行われるグループワークやアクティビティーへの主体的参加・貢献の様子を含む)<20%> ③「最終個別課題:講義の主題や重点事項を形式や内容に充分反映させた学習指導単元案(具体的な要件等については最終段階の講義内で説明)」の量的・質的完成度<40%> 以上により総合的に評価する。但し、「受講態度が好ましくない」「最終個別課題を提出していない」等の場合は、評価の対象とならない。												
23. 受講生へのメッセージ												
自らが小・中・高で経験してきた総合的な学習の時間での学びの記憶や実感を想起し、各回の主題や具体的内容に重ねながら、学修課題に主体的に取り組むこと。												
24. オフィスアワー												
授業の前後にて対応												
25. 授業回数												
26.授業内容												
27.アサインメント(宿題)など ○教室外学修(予習、復習)/◎教室外グループ学修/★提出物/◆持参物◆												
理論的な学修												
実践的な学修												
第1回												
総合的な学習の時間に対する認識の確立												
○「総合的な学習の時間」設置の意義・目的・要件(4つの手)												
○(試行期間を含めた)実施後の経緯と現状としての諸課題												
・映像その他資料による実践事例把握 ・学習活動に対するイメージや												
実感等について意見交換												

第2回	アクティブラーニングとしての改善に向けた具体的指針 (1) 話し合い活動による活動のプロデュース及びマネージメント	○オーセンティックな課題のプロジェクト化による主体性の確立	・実社会や実生活の諸課題に基づいてクラス全体で共有する「プロジェクトテーマ」の仮想立ち上げ＜生徒目線＞	
		○共同性に根ざした探究課題の見当づけと役割の想起	・仮想テーマの根本目的や到達目標などを起点にウエビングを作成しながら、探究上の諸課題を見極め、そこから派生する役割を実際に分担する＜生徒目線＞	
		○創造性を発揮した機能的な探究手段への見通しとその形成的修正の重要性	・探究諸課題に基づいて、具体的に取り組むべき体験学習や調べ学習などを見極め、先の役割分担の中に意識化する。＜生徒目線＞	
第3回	アクティブラーニングとしての改善に向けた具体的指針 (2) 話し合い活動を通しての探究サイクルの構築	○教科等との連携による「知識・言葉」の学びの学際(横断)化	・探究深化に向けた教科等との機能的連携の必要性も意識に加え(ここでは道徳科を教員が提示)、具体的展開の構想に組み込む。＜生徒目線＞	
		○機能的体験活動による「実際・生活」の学びとの一連化	・上記の必要意識に基づき、具体的教材を主体(主観)化して用いた道徳の学びを展開し、その中で派生した「体験的な学び」にも取り組む。＜生徒目線＞	
第4回		○試行錯誤を重ね「理」を築きながら一体化される二つの学び	・体験での実感等を振り返り、教材主題についての判断を相互主体的に形成して、その後の探究展開に反映していくための「話し合い活動」に取り組む。また、そこでの気づき(難しさ等)を次回のワークショップにつなげる。	
第5回	アクティブラーニングとしての改善に向けた具体的指針 (3) 話し合い活動自体の論理性の獲得	○話し合い活動における論理的展開の必要性	・論理的言語運用力向上ワークショップ①＜生徒目線／教師目線＞	
		○論理性の仕組みと具体的運用(説明と説得)	・論理的言語運用力向上ワークショップ②＜生徒目線／教師目線＞	
第6回	総合的な学習の時間の実効化に向けた教師の役割(指導・支援の在り方)	○形式的展開受容の余地も確保しながら先見力を発揮しての学習計画のグランドデザイン	・提示要件・条件に基づく単元案構想①＜教師目線(生徒目線での発想も組み込みながら)・グループ毎＞	

第 7 回		○テーマ(目的・目標)へのこだわりながら立ち返りながらPDCAを意識させる展開過程での指導・支援	・提示要件・条件(付加分を含む)に基づく単元案の構想②～プレゼン作成<教師目線(生徒目線での発想も組み込みながら)・グループ毎>	
第 8 回		○ICT など有効な手立ての選択力と活用力の伸長	・単元案プレゼン作成仕上げ(ICT も積極的に活用しながら)<教師目線>	
		○コンテンツベースからコンピテンシーベースへの学力観転換を見据えた学びの評価(具体的指針や観点の策定)	・単元案プレゼン発表<教師目線> ・単元案相互評価・教員講評<教師目線>	
		○まとめ:学習活動としての社会的要請の高まりとそれに応えるための実践意義への信頼と粘り強い取り組みへの覚悟		

1.授業コード(ナンバリング)			2.科目名	特別活動の指導法	3.単位数	2	
4. 授業担当教員	松田忠喜						
5. 授業科目の区分	教職 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・特別活動の指導法		6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	※	
8. 履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	2年～		
10. 取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民)中学(英語) 中学(社会) 高校(情報)			11.先修条件			
12. 研究室	※			13.電話番号	※		
14. E-Mail Address	※			15. 授業形態	講義 単独		
16.履修制限							
17. 本授業の概要と学修目標	[授業の概要] 「人間形成の基本となる教育活動は特別活動である」という視点から、特別活動の特質や意義、活動内容、指導方法などについて考察する。 一方的な講義に終始するのではなく、課題についての話し合いや具体的な実践事例を参考にしながら、特別活動の大切さを追求する。 [学修目標] 本授業では、特別活動の目標を具現化する理論や実践を明らかにし、特別活動の教育的意義を理解した上で、実践的な指導力を身に付ける。 ①本授業に積極的に参加し、特別活動に関する基礎的な知識を有する。 ②授業内容を踏まえて、特別活動の教育的意義について自己の考えを確立する。 ③教育の今日的課題の解決に向けて、特別活動の果たすべき役割を具体事例として把握する。						
18.目標とするKUIS学修ベンチマーク	自律できる人間になる		社会に貢献できる人間になる		心豊かな市民になる		
	知的 好奇心		規範 順守		社会的 能動性		
	自律性		多様性 理解		共感的 態度		
		情報 収集・ 活用力		問題 発見力		論理的 思考・ 判断力	
		計画・ 実行力		自己 表現力		意見 交換・ 調整力	
		-	-	-	-	-	-
19.ベンチマークとの対応	①社会的能動性(レベル 3:社会が求めていることに関心を示し、社会のために他者と協働しながら行動することができる。) 本授業では、「集団による自主的な実践活動という特別活動の特質を踏まえた指導法の追究を通して、履修生自らの人間形成、社会性の涵養、人間関係形成能力などが伸張できるようになること。並びに、教育の今日的課題解決に向けて、他の教職員と一体となって特別活動の効果的な指導ができる力を身に付けるようになること」である。 ②意見交換・調整力(レベル 3:他者の主張を理解して、自分の意見や考えと他者の意見を調整して、互いに納得できる結論を得ることができる。) 本授業では、「特別活動の話し合いは、よりよい学級・学校生活を目指して、多様な思いや意見をまとめる話し合いであることを踏まえ、安易な多数						

	決を導入せず、熟議を経て、多数納得で合意形成を図る能力を育てるねらいがある。そのためには、すり合わせの大切さ、折り合いの尊さを体験しながら、I am ok→You are ok →We are ok の過程で物事をまとめるコミュニケーション能力を身に付けるようになること」である。
20. 教科書	なし(講義の中で、資料を配布する。)
21. 参考書	①文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」(ぎょうせい・2017年) ②文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」(海文堂出版・2009年) ③国立教育政策研究所「学級・学校文化を創る特別活動 中学校編」(東京書籍・2016年)
22. 成績評価の方法 (中間評価、最終評価の方法等)	本講義では、特別活動の指導法に関して、概論(第1回)→総論(第2～4回)→各論(第5～7回)→細論(第8～14回)→まとめ(第15回)で展開し、それぞれの理解を図ったうえで、最後にレポートの提出を求める。評価にあたっては、平生の授業態度も含めて総合的に行う。 ①授業への参加態度(20%) ②授業での提出物(20%) ③レポート(60%)
23. 受講生へのメッセージ	学校時代の思い出に、特別活動の活動や行事を挙げる人は多い。本講義では、特別活動の教育的意義を踏まえて、生徒がよりよい学級生活、学校生活を目指して自治的に活動できるための効果的な指導のあり方を共に考察していきたい。 「為すことによって学ぶ」という特別活動の指導原理に基づいて、授業中の小集団協議にも自主的・実践的に参加すること。
24. オフィスアワー	授業終了後、教室内で質問を受ける。

25.授業回数	26.授業内容	27.アサインメント(宿題)など ○教室外学修(予習、復習)/◎教室外グループ学修/★提出物/ ◆持参物◆
第1回)	特別活動の概要 ・特別活動とは何か ・学校教育での位置付け	○予習:特別活動には、どのような教育活動があるか調べておく(60分) ○復習:教育課程に位置づいている特別活動の内容を確認する(60分)
第2回	特別活動の特質 ・子どもの現状と課題 ・特質と指導原理	○予習:教育の課題解決に向けて、特別活動が果たす役割を調べる(60分) ○復習:特別活動の特質、指導原理、方法原理を確認する(60分)
第3回	特別活動の変遷 ・歴史的な歩み ・今回の学習指導要領の改訂	○予習:特別活動の歩みと指導要領の改訂との関連について調べる(60分) ○復習:特別活動の変遷と、今回の指導要領改訂を理解する(60分)

第 4 回	特別活動の目標と内容 ・目標と教育的意義 ・内容とその取扱い ・校種間の関連	○予習:小・中・高の特別活動の目標、意義、内容の中味と関連性を調べる(60 分) ○復習:発達段階に即した特別活動の目標、教育的意義・内容を把握する(60 分)
第 5 回	学級活動(ホームルーム活動)の目標と内容 ・目標と教育的意義 ・内容とその取扱い ・展開事例	○予習 :学級活動の目標、及びそれを達成するための内容を調べる(60 分) ○復習:特別活動の特質を踏まえた学級活動の目標、意義、内容を理解する(60 分)
第 6 回	生徒会活動の目標と内容 ・目標と教育的意義 ・内容とその取扱い ・展開事例	○予習:生徒会活動の目標、及びそれを達成するための内容を調べる(60 分) ○復習:特別活動の特質を踏まえた生徒会活動の目標、意義、内容を理解する(60 分)
第 7 回	学校行事の目標と内容 ・目標と教育的意義 ・内容とその取扱い ・展開事例	○予習:学校 f 行事の目標、及びそれを達成するための内容を調べる(60 分) ○復習:特別活動の特質を踏まえた学校行事の目標、意義、内容を理解する(60 分)
第 8 回	特別活動の指導計画 ・全体計画 ・三内容の相互関連 ・年間指導計画	○予習:特別活動を効果的に展開するための指導計画のあり方を調べる(60 分) ○復習:特別活動の全体計画、年間指導計画、各指導案を確認する(60 分)
第 9 回	特別活動と他の教育活動との関連 ・教科との関連 ・道徳との関連 ・総合的な学習の時間との関連	○予習:教育目標に向けた、特別活動と他の教育活動との関連を調べる(60 分) ○復習:教科・道徳・総合との双方向的な関連、相互補完を整理する(60 分)
第 10 回	特別活動と学校・学年・学級経営 ・人間関係の形成 ・社会性の育成 ・生徒指導の充実	○予習:円滑な学級経営を図る上での、特別活動の役割や機能を調べる(60 分) ○復習:学校・学年・学級経営における特別

		活動の役割を理解する。(60分)
第 11 回	特別活動の指導実践(学級活動の(1)を中心に) ・指導の実際 ・事前一本時一事後の流れ ・学習指導案の作成	○予習:各教科の一般的な学習指導案の形式、書式、内容などを調べておく(60分) ○復習:学級活動の活動過程と、一時間の学習指導案の要点を理解する(60分)
第 12 回	特別活動の評価 ・学力のとらえ方 ・特別活動で育つ力 ・評価の実際	○予習:評価の持つ意味と、特別活動の評価のあり方について調べる(60分) ○復習:よさを積極的に認めて評価する意義や効果を理解する(60分)
第 13 回	特別活動をめぐる諸問題 ・理解の深化 ・学校力・教師力 ・活動時間の確保	○予習:特別活動の充実を図るうえで、学校や教師に必要なことを調べる(60分) ○復習:特別活動の効果的な展開と、学校力、教師力との関連を理解する(60分)
第 14 回	これからの学校教育と特別活動 ・課題と展望 ・特別活動に求められるもの	○予習:これからの学校教育の中で、特別活動が果たすべき役割を調べる(60分) ○復習:学級活動、生徒会活動、学校行事の課題と展望をまとめる(60分)
第 15 回	特別活動の指導法のまとめ ・キーワードでの振り返り ・全体のまとめ ・最後に	★レポートの提出(一月前に課題提示) ○予習:授業で出てきたキーワードをもとに、特別活動の指導法を振り返る(60分) ○復習:特別活動の指導法に関する知識・理解を確かなものにする(60分)

1.授業コード(ナンバリング)	EDU206-Y51	2.科目名	教育方法論(情報通信技術の活用を含む)	3.単位数	2
4.授業担当教員	中嶋康二				
5.授業科目の区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2023 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	中高教職	9.履修学年	2 年～		
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 中学(英語) 中学(社会) 高校(情報)	11.先修条件			
12.研究室	神戸山手キャンパス 1 号館 1-319 研究室	13.電話番号			
14.E-Mail Address		15.授業形態	講義 単独		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の効果・効率を高めるためのさまざまな手法や授業設計の考え方のほか、コンピュータやインターネットなどの ICT を教育において効果的に活用する方法を学びます。将来の授業運営に活きる知識とスキルを身につけます。 くわたくしが「教えたか？」よりも、子どもたちが「学んだか？」という観点に重点を置いた、教育の方法や技術について学びましょう。 授業においては、授業設計の活動などでは、進捗管理や相互レビューなどでグループやペア学習を行います。また、各回の作業では、WebClass をはじめとした ICT ツールを活用することで利用効果を実際に経験します。				
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標(=身につくスキル)は次の通りです。 ① 子どもが身につけるべき資質・能力とは何かを説明できる。 ② 教育方法の基本原則に基づいた授業設計手法を適用した授業設計を作成できる。 ③ 学びを支援する指導技術に基づいた学習指導案を授業設計に盛り込むことができる。 ④ 授業設計や指導方略において、必要に応じて適切な ICT 活用を盛り込むことができる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性(3) 多様性理解(4) 問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル(6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	『教育の方法と技術 Ver.2～ID と ICT でつくる主体的・対話的で深い学び』稲垣 忠 著, 北大路書房, 2022 年				

20.参考文献	『ICT 活用の理論と実践ーDX 時代の教師をめざして』稲垣忠・佐藤和紀編著, 北大路書房, 2021 年 『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』堀田龍也・佐藤和紀, 三省堂, 2019 年 その他、授業中に適宜紹介します。	
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)オンライン小テスト (学習目標1・2・3・4 に対応)20% →各小テストは、満点で合格です。(何度でも受験可) →実施時期は、授業の中で指示します。 (2)中課題:学習課題分析図 (学習目標2に対応)25% (3)小課題(1):学習指導計画案(学習目標3に対応)10% (4)小課題(2):ICT 活用授業案(学習目標4に対応)10% (5)最終課題:学習指導案検討シート (学習目標1・2・3・4に対応)35%	
22.コメント	・各回の授業で提示される予習・復習は、下表の「26. アサインメント(宿題)など」の欄に記載しています。(個人差はありますが)それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー:月曜日昼休み ※オフィスアワーの時間以外でも、質問等があれば随時間い合わせてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題)など
		教室外学習(予習、復習)、教室外グループ学修、提出物、持参物など
ブロック1 第1回	・本科目の授業デザインについて解説 ・これから子どもたちに育みたい資質 能力(情報活用能力を含む)について(第1章)	[予習] シラバスと教科書第1章を読む [復習] 子どもたちに育みたい資質・能力について、自分の意見をまとめる
第2回	・教師に求められる授業力とは(第2章) ・授業の魅力を高める ICT の活用(第12章) →教育における先端技術の活用について ・主体的学びの促進 ・個別最適学習や共同学習を実現するための ICT 活用の意義 ・学習ログの活用や情報セキュリティの重要性	[予習] 第2・12章を精読/理想の教師像について自分の意見をまとめる [復習] 教師を目指す上で重要と考える点をまとめる
第3回	授業デザインの基本形について学ぶ(第3・4章) ・メーカー 3つの質問 ・ガニエ 9教授事象 など	[予習] 第3・4章を精読 [復習] 授業企画案を作成する
第4回	・授業企画を書き出してみる ←受講者間で相互レビュー ・学習目標の分類(第4章)	[予習] 自分の体験で印象に残っている「よい授業」を書き出す [復習] 授業企画案を完成して提出

第 5 回	・学習目標の構造化と系列化 ・学習課題分析図の作成方法(第 9 章)	[予習] 第 9 章を精読／学習目標の分類についての知識をまとめてみる [復習] 自分の授業企画案の学習目標について分類を確認し、必要に応じて修正する
第 6 回	学習課題分析図を作成する(第 9 章) ←受講者間で相互レビュー	[予習] 課題分析図の種類・構成についてまとめてみる [復習] 自分の授業企画案に基づいた課題分析図を描いてみる ◆中課題:課題分析図を WebClass から提出
第 7 回	評価方法:学習目標と適切に対応させる(第 11 章)	[予習] 第 11 章を精読する／授業企画案の学習目標に対応する評価方法を検討する [復習] 授業企画案の学習目標に対応する評価方法を修正する。
ブロック 2 第 8 回	・学習環境について ・デジタルコンテンツの役割について ・教室内外の対話・協働を支える ICT の活用について(特別な支援を必要とする学習者への対応を含む) ・学習指導法(発問などについて) など	[予習] 第 5・6 章を精読する [復習] 授業企画書の指導案を検討する
第 9 回	・主体的な学習活動について(ケラーARCS モデル)(第 10 章) ・ICT による学びの保障(学習率:キャロル 時間モデル)(第 7 章) ・オンライン授業の意義と活用方法について	[予習] 第 7・10 章を精読する [復習] 授業企画書の指導方法をブラッシュアップする ◆小課題(1):学習指導計画案「単元・各回の授業検討ワークシート」を WebClass から提出
第 10 回	・ICT の使い方を教える ・情報モラル・セキュリティ教育の重要性について(第 13 章) ・これからの学校・教師の役割について(第 14 章) ・大学との連携等による外部の教育リソースの活用について	[予習] 第 13・14 章を精読する [復習] ICT を活用した授業案を検討する ◆小課題(2):ICT 活用授業案を WebClass から提出
第 11 回	・ICT を使った授業を考えてみる ・学校の ICT 環境の整備について ・ICT 環境や効果的な ICT 活用の事例を参照 ・ICT を活用した指導方法の修練	[予習] ICT を活用した授業について事例を調べる [復習] 授業企画案の ICT 活用案をブラッシュアップする

ブロック3 第 12 回	・探究する学習のための授業設計について ・学習指導案のための授業デザインワークシートの作成方法(第 8 章) ・各回の授業内容検討シートの作成(ICT 活用の適用検討を含む)	[予習] 第 8 章を精読する／学習指導案を作成開始する [復習] 学習指導案のための授業デザインワークシートを作成する
第 13 回	・情報活用能力のカリキュラムマネジメント ・校務における ICT 活用について ・学習課題分析図の最終版を完成 ←受講者間で相互レビュー	[予習] 中課題で提出した課題分析図を見直す [復習] 課題分析図をブラッシュアップする
第 14 回	・最終課題「学習指導案のための授業デザイン」の完成 ・授業デザイン案(最終課題の学修成果)をグループ内共有→相互レビュー ・Q&A	[予習] [復習] これまでに学んだことを活かして学習指導案のための授業デザインワークシートをブラッシュアップする。
第 15 回	・学んだ事項の総括 ・授業後に実践できるものとなることを目指したふりかえり	[予習] 学習指導案のための授業デザインワークシートを完成する ◆最終課題: 学習指導案のための授業デザインワークシートを WebClass から提出する

19.ベンチマークとの対応	① 大項目「心豊かな世界市民になる」 中項目「共感的理解 レベル2〈相手の感情、思考、行動を理解するために、その人の立場に立って考えることができる。〉」 生徒指導は、生徒一人一人の人格を最も望ましい方向に完成させるための指導・援助である。それには、教師の生徒との受容的・共感的な関わりや保護者との連携は不可欠である。 本授業に沿って言うと、生徒や保護者との関わりのあり方を思考しながら、受講される一人一人が望ましい生徒指導観を持つことを希望する。	
	② 大項目「コミュニケーション能力を身につける」 中項目「意見交換力・調整力 レベル2〈他者の発言の論点を理解して、それに対する自分の意見を示すことができる。〉」 成長段階の生徒が問題行動を起こすことは当然であろう。その解決に向けての生徒指導のあり方によって解決を難しくすることがある。本授業に沿って言うと、生徒と関わる人たちとのコミュニケーションを図りながら指導・援助のあり方を模索する必要がある。本授業や生徒指導事例へのコメントを求めることで、一人一人が自分の意見や考え方をまとめて示すことができることを希望する。	
	20. 教科書	文部科学省 生徒指導提要(改訂版) 一令和4年12月一
	21. 参考書	仙崎武・野々村新・渡辺三枝子・菊池武烈 編著 生徒指導・教育相談・進路指導 田研出版
	22. 成績評価の方法(中間評価、最終評価の方法等)	① 生徒指導事例へのコメント8回×3%=24% ② 感想4回×4%=16% ③ 中間課題 20% ④ 最終課題 40% 最終評価は、①～④の合計で100%
23. 受講生へのメッセージ	児童・生徒は生徒指導の在り方によって大きく成長する。試験の点数のみで児童・生徒を見るのではなく、いろいろな面から児童・生徒を理解した生徒指導の在り方を考え、明るく楽しい授業にしたい。	
24. オフィスアワー	水曜日5限	
25.授業回数	26.授業内容	27.アサインメント(宿題)など ○教室外学修(予習、復習)/◎教室外グループ学修/★提出物/◆持参物◆
【1回目】	オリエンテーション ○ 次回のKJ法のプリントを配布する。KJ法について理解しておくこと。 ○生徒指導の定義と目的について説明を行う。	KJ法の予習(60分)
【2回目】	KJ法、「私のイメージする生徒指導」 ◎ グループワーク5～6名のグループに分かれてKJ法を実施し、代表者が発表する。 ○ KJ法の感想文を提出する。この感想文の提出を持って出席とする。	
【3回目】	生徒指導の意義と課題 教科書pp I～3 ・生徒指導の理念・意義について学び、生徒指導の課題について考える。	

	教育課程における生徒指導の位置づけ 教科書pp4～8 ○ 生徒指導事例①を読み、感想文を提出する。この提出を持って出席とする。	
【4回目】	生徒指導の前提となる発達観と指導観 教科書pp9～13 集団指導と個別指導 教科書pp14～20 集団指導・個別指導の意義や方法原理について学ぶ。 ○ 生徒指導事例②を読み、感想文を提出する。この提出を持って出席とする。	
【5回目】	教育課程と生徒指導 教科書pp23～25 教科における生徒指導の意義、教科における生徒指導 推進あり方児童生徒の心理と児童生徒理解 教科書pp40～54 生徒理解の基本、児童期の心理と発達 ○ 生徒指導事例③を読み、感想文を提出する。この提出を持って出席とする。	
【6回目】	青年期の心理と発達 教科書pp54～65 青年期の発達の特徴、発達障害と思春期 児童生徒理解の資料とその収集 教科書pp66～74 資料収集の目的、把握理解すべき内容 資料収集の方法 ○ 生徒指導事例④を読み、感想文を提出する。この提出を持って出席とする。 ○ 中間課題課題のテーマ、提出日については授業終了時に示す。	
【7回目】	学校における生徒指導体制 教科書pp75～90 生徒指導体制の基本的な考え方、生徒指導の組織と生徒指導主事の役割 年間指導計画、生徒指導のための教員研修生徒指導の評価と改善 ○ 生徒指導事例を読み、感想文を提出する。この感想文の提出をもって出席とする。	中間課題の作成(60分)
【8回目】	発達と問題行動 教科書pp152～190 ◎ グループワーク グループに分かれ「児童・生徒の問題行動のとらえ方について協議する。 生徒指導における児童・生徒の発達の理解の重要性を学ぶ。児童期・青年期の問題行動の捉え方を様々な事例から考える。 ○ 問題行動のとらえ方についての感想文を提出する。この提出を持って出席とする。	★中間課題の提出
【9回目】	教育相談 教科書pp92～118 我が国における教育相談の歩みと課題、教育相談の意義、教育相談体制の構築、教育相談の進め方、スクールカウンセラーの導入と連携活動:教育相談のロールプレイ	インシデントプロセス法についての予習(60分)

	グパワーポイントを用いてのロールプレイング ○ ロールプレイングの感想文を提出する。この提出をもって出席とする。 ○ 授業終了時にインシデントプロセス法についての説明文を渡す。	
【10回目】	生徒指導の進め方 教科書pp127～148 児童生徒全体への指導 組織的対応と関係機関との連携、生徒指導における教職員の役割、守秘義務と説明責任、学級担任・ホームルーム担任の指導、児童生徒の安全にかかわる指導 インシデント・プロセス法による事例研究 テーマ「中学生のいじめ」 ◎ グループワーク「中学校におけるいじめ」の事例を提示し、各班に分かれて事例研究、その結果を各班毎に発表する。 ○ 教育現場での事例研究の在り方を学ぶと共に、事例を通して多様な見方、考察を行う。	
【11回目】	進路指導の歴史と理念 進路指導プリント pp1～7 ・進路指導の沿革と発展、日本における歴史的展開、進路指導の意義・ 目的・機能、進路指導と教育課程・学習指導要領について学ぶ。 ○ 生徒指導事例⑥を読み、感想文を提出する。この提出を持って出席とする。	
【12回目】	進路指導の基礎理論と方法、学級活動、ホームルーム活動における進路指導 進路指導プリント pp8～28 ・進路指導の理論、中学における進路学習の教育課程への位置づけ、高等学校における進路指導計画について学ぶ。 ○ 生徒指導事例⑦を読み、感想文を提出する。この提出を持って出席とする。	
【13回目】	キャリア発達と発達課題 進路指導プリント pp26～33 ・就学前から小学校、小学校、中学校、高等学校、高等教育機関までのキャリア発達課題について学ぶ ・活動： キャリアカウンセリングのロール・プレイング ・生徒指導事例⑧を読み、その感想文を提出する。この提出を持って出席とする。 ○ 最終課題 課題のテーマ、提出日については授業終了時に示す。	
【14回目】	生徒指導に関する法制度等 教科書pp192～198 校則、懲戒と体罰、出席停止、非行少年の処遇 学校と家庭・地域社会・関係機関との連携 教科書pp20	最終課題の作成(60分)

	8～224 地域社会における児童生徒、学校を中心とした家庭・地域・関係機関などとの連携活動、地域ぐるみで進める健全育成と学校	
【15回目】	グループ面談 ・ 授業を振り返って(授業のあり方や一人一人の授業への参加度などに就いての意見交換) ・ 最終課題提出の確認、出席時数の確認	★最終課題の提出

1.授業コード(ナンバリング)	2.科目名				教育相談	3.単位数	2					
4. 授業担当教員	田中亜裕子											
5. 授業科目の区分	展開科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	※					
8. 履修可能な専攻				9.履修学年	3年～							
10. 取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民)中学(英語) 中学(社会) 高校(情報)			11.先修条件								
12. 研究室	※			13.電話番号	※							
14. E-Mail Address	※			15. 授業形態	講義 単独							
16.履修制限												
17. 本授業の概要と学修目標	【学修の目標】 ・獲得した知識や技能を活用して、子供達の「教育」にかかわる全てについての課題や問題把握、理解、教育方法をデザインすることができる力の獲得を到達目標とします。 【学修の概要】 ①予防・開発的教育相談 ②子供の発達課題と教育相談が果たす役割 ③教育相談と特別支援教育 をキーワードとして学んでいきます。つまり中核となる課題ということです。 ・実際の教育現場や場面をイメージしながら他者との価値観の交流や交換・協働をしていきましょう。 そこでは、論理的に課題を捉える事から始めます。 ・具体的な教育事象に興味関心を持ちましょう。日常生活の中で出会う、知る、情報をキャッチして「教育相談」の視点で立ち止まって考えてみましょう。それを授業の中に反映してください。											
18.目標とするKUIS学修ベンチマーク	自律できる人間になる		社会に貢献できる人間になる		心豊かな世界市民になる		問題解決能力を身につける	コミュニケーション能力を身につける				
	知的 好奇心	自律性	規範順守	社会的 能動性	多様 理解	共感 的態度	情報 収集・ 活用力	問題 発見力	論理 的思考/ 判断力	計画・ 実行力	自己 表現力	意見 交換・ 調整力
								レ ベル3	レ ベル3			
19.ベンチマークとの対応	①問題発見力(レベル3:現状を確認し、今後生じる問題を積極的に見つけ、解決のための課題を提示することができる。 ②論理的思考／判断力(レベル3:論証に基づいて論理的な意見や結論を導き出すことができる。 獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが見つけた課題や問題点を論理的な分析と考察を通して解決・解明へと導くことができる。また、多様な他者と											

	共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働出来ること、を目指します。教育相談は、1対1対応の相談や指導、カウンセリングというイメージを持たれているかもしれませんが、本授業では、もっと広義での「教育相談」を学んでいきます。予防・開発的教育相談から学びます。中心的な部分では「保育」「学校教育」が授業では中心となりますが、施設や児童館、デイサービス…多様な場面で必要となることを理解してください。「教育相談」の対称は多様です。子供達だけではないことは言うまでもありません。子供たちの「教育」にかかわるすべての環境を対象にして、予防・開発的な視点から考えていきます。獲得した能力を更新しながら、子供たちが直面している、あるいは直面するであろう課題やかかわりを論理的に分析、考察し、実践力へと繋げていくことができるようにと考えています。新聞記事などから「今の教育」に関する記事などを毎回紹介します。自分の見方や考えを他者との価値観の中でより深めることができるようにも期待します。	
20. 教科書	教師のための初等教育相談 日常から子どもに向きあうインクルーシブな発達支援 西本絹子 2015年 初版第1刷 萌文書林	
21. 参考書	・授業の中で適宜紹介します。	
22. 成績評価の方法(中間評価、最終評価の方法等)	・総括テスト40%(教育相談に関する基礎的な知識20%と「教育相談」の視点で問題に対しての考え方20%) 課題点 60%(課題のレポート3回×20)出席することは前提ですので、欠席することに減点の対象となります。 ・レポートは、授業の中で提示します。 A4で1枚…論理的な記述ができていかなどをルーブリックに示された観点で評価します。 ルーブリックでの項目は、レポートの課題提示の時に伝えます。	
23. 受講生へのメッセージ	・教育相談は、問題を抱えている子供たちのための物ではありません。 すべての子供たちの健全な成長を願い、そこに向けての教育活動です。ですから学校生活の、あるいは、保育活動の、すべての教育的な活動の中で意識的に計画的に行われるものです。国語や社会…教科学習の中でも教育相談活動は行われます。 実践の中で使うことができるためには、技術、スキルの獲得の前に、論理的に考えることをしていきましょう。論理的に課題や問題を捉えて、仮説を立て、問題解決へと導いていくスタイルを身に付けてください。	
24. オフィスアワー		
25. 授業回数	26. 授業内容	27. アサインメント(宿題)など ○教室外学修(予習、復習)/◎教室外グループ学修/★提出物/◆持参物◆
【第1回】	教育相談の授業で何を学ぶかをイメージしましょう。絵本「ちきゅうからのしつもん」から…1対1対応の教育相談、生徒指導のイメージからもっと広義の教育相談をイメージできるようにします。自分の経験の中で考えてみます。今求められている「教育相談」を考えます。	予習としてテキストp19からpp30を熟読(120分)
【第2回】	第1章 教育相談とは？ 予防・開発的取り組みと教育相談 ① ・教育相談の仕組みを「学校心理学」から理解します。予防・開発的教育相談は「教育相談」の基礎となる部分であることを学びます。今求められている教育相談の役割として理解を深めていきます。教育相談の対象となるのは？という理解もします。今までとは違う視点を持ちましょう。	予習としてテキスト p31からp42を熟読(120分)

【第3回】	第2章 学校における心理教育 ・教育領域における心理教育を考えます。前回到学んだ予防・開発的教育相談を具体的に考えます。具体的な例として実際の保育、教育現場での課題を考えましょう。「震災」からの学びとして「減災教育」を考えます。 (テキストと資料を使います)	予習としてテキスト p42 から p54 を熟読(120分)
【第4回】	第3章 相談援助の技術・カウンセリングに関する基礎的な知識 子どもの発達課題と教育相談の技術 ・学童期の発達と教育相談…教育相談を学ぶ上で、子供の発達を知るとはとても重要なことです。それぞれの段階における発達上の課題があります。 ・学校現場で使えるカウンセリングの基礎知識と技法を学びます。 ロジャースの三条件・国分康孝の理論から学ぶ。技法と併せて、実際の現場をイメージできるようにしましょう。 小1 プロブレム、9歳10歳の壁、集団の中での位置づけなど、子供たちの能力を育てる「教育相談」の予防・開発的意味から相談技術としての「聞く」ことを考えます。	予習としてテキスト p70 から p80 を熟読(120分)
【第5回】	第5章 子ども理解1 子どもの「問題行動」と教育相談 ① ・「問題行動」を発達的に捉えて議論をしてみましょう。子供の立場から社会的な立場からも考えてみましょう。具体的にイメージしながら意見交換をしていきましょう。ゲームやスマホ依存などについても考えましょう。[発達]や[支援]や[社会の求める事]などから考えましょう。	予習としてテキストp81 から92を熟読(120分)
【第6回】	第6章 子ども理解2 問題のアセスメント ・ワーク5をやってみましょう。他の事例も見ながら、子どもの状況を把握するということはなぜ必要なのか、どのようにして子どもを理解していくのかを理論的なベースをしっかりと修得します。そのうえで、事例から考えてみます。実際に子どもの状況把握に取り組んでみましょう。なにが分かったか、どんな背景を子どもは持っているのかを導き出してみましょう。	今の現状で子どもの「問題行動」として、具体的にどのようなことが取り上げられているかを考えてきます。テキストp92～104を熟読してきます。
【第7回】	第7章 子ども理解3 実際の「問題行動」と教育相談 ・「問題行動」を通して何を支援、指導、していくのかを考えましょう。「学力の問題」に注目することは重要なことです。低学力や無気力、格差の問題、それらに対応して教育相談は何かできるのだろうか。現実の社会的な課題を先ず、理論的な、あるべき姿から考えてみましょう。そこから教育相談ができることをみんなで考えてみましょう。	いじめ問題について、どのような集団であれば、そのようなことが予防できるか、あるいは開発的に対処・対応できるかを考えてきましょう。テキストp105からp110を読んできます。
【第8回】	第8章 教育相談からのいじめ問題への対応 ・教育相談は個人にも集団にも大きな役割として積極的にかかわっていきます。子ども社会の中での「いじめ」問題は重要な課題です。実際に行われている事例を基にして理解していきましょう。個人だけではなく「集団」が抱える問題としても考えていきます。「集団」を育てることを意識して、サポート体制の中の重要な役割として教育相談を学んでいきましょう。	予習として p119 から 132 を熟読(120分)
【第9回】	第9章 教育相談と不登校への対応・かかわりかた ・不登校のさまざまな背景を考えてみましょう。それによって支援やかかわりの仕方が大きく変わってきます。不登校が増えてきている実態の中で「教育相談」ができることを考	予習として「教科と教育相談」について資料を熟読(120分) ? 資料を渡します。

	えます。	
【第10回】	資料「教科と教育相談」から ① ・・教育相談は、学校生活(保育なども含めて)の全体を通して行われます。学校生活での中心的な場面としては「授業」です。学校生活の大半を占める授業の中で「教育相談」は何ができるのか、何を求めていくのか、を考えます。実際にどのように具現化できるのかの例をいくつか示します(講義3で学んだ「減災教育」についても指導計画の中に位置づけることができます)。そこで何を子供たちが学び、どのような力を身に付けていくことができるのか、それを意図的に意識的に考えて授業を行う、ということを学んでい	予習として、学習指導案の原案を作ってきます。(120分)
【第11回】	資料「教科と教育相談」から ② ・・簡単な授業の「指導案」を教育相談の視点(予防・開発的な視点から)から作ってみましょう。楽しみながら作ってみましょう。	予習としてテキストp133からp160を熟読(120分) 2章分なので読み込んでおきましょう。
【第12回】	第10章・11章 特別な支援を要する子どもへの対応と教育相談 ・・教育相談ができることについて具体的に考えていきましょう。 「いじめ」などの問題と同じように「集団」を育てるという意識も持ってほしいと期待しています。そういう視点から考えられる事をスタートラインとする視点と個人をいかにサポートするかという視点との両輪で考えていきます。 このコマしかありませんが、今まで学んだことの集大成としてもこの時間の学びを位置づけてください。	予習として「ピアサポート」「アンガーマネジメント」「エゴグラム」などについて調べてきましょう。(120分)
【第13回】	教育相談の技法 ・・実際に教育相談の中で使われている「技法」があります。「個人」に対して「集団」を育てることに有効なものとして・・・それらのいくつかを紹介します。実際に使ってみましょう、やってみましょう。	予習としてテキストを中心に学んだことを復習。(120分)
【第14回】	第13章 保護者や外部専門機関との連携と教育相談 ・・教育相談で、保護者との連携を考えることが大事です。また、外部専門機関と連携・協力することも近年ますます必要となってきています。家庭の「養育力」の弱体化、不足などへの対応としての福祉的なケアへ、医療、心理的ケアが必要な子供たちもいます。外部専門機関との連携は、重要な教育相談の役割の一つとなってきています。資料から	テキストp174からp187を熟読してきてください。
【第15回】	総括として、 ・・幼少、小中連携の観点から考える幼稚園時代の教育相談、小学校や中学校時代の教育相談の意義についてもあわせて考えます。現場をイメージして理論を土台にした実践的なまとめをします。	

シラバス：教職実践演習（中・高）

シラバス：教職実践演習 (中・高)		単位数：2単位		担当教員名：片山真理	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 20人(1クラスで実施)					
教員の連携・協力体制 単独、ただし教職教育推進室にあたっている教員の授業外でのバックアップ体制はある。					
授業のテーマ及び到達目標 これまで学んだ教職や専門の知識を統合し、教育実習での経験を踏まえて、将来の教員としての準備に活かす。					
授業の概要 【授業の概要】 教職実践演習は、教職課程に組み込まれている他の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認するもので、いわば4年間を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられています。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。 ○学習指導について、模擬授業、ロールプレイ、授業参観、学習指導案、教材研究等により授業力を高めます。 ○学級経営・生徒理解のために、現職教員の講話、実践事例研究、討論等により理解力・指導力を高めます。 ○学校の服務、校務分掌などの実際について知り、社会性を身に付けます。 ○教員としての社会的な使命・責任・役割を理解し、自覚を促します。 【学修目標】 ○教材研究の方法を理解し、授業のスキルを磨く ○学校を取り巻く様々な問題などについて理解する ○学校の服務、校務分掌などを知る ○教員としての社会的な使命・責任・役割を理解する ○教員として自分に不足していることを自覚し、どう伸ばすか、補うか、考える					

授業計画

- 【第1回】 イントロダクション 4年間の学修の振り返り
「履修カルテ」による現状把握、教育実習終了までの記録作成
- 【第2回】 教師に求められる資質（1）
学校現場で求められる教師像―教員の役割と責務 教育実習の総括と分析
- 【第3回】 教師に求められる資質（2）
各地方自治体が求める教師像
- 【第4回】 教師に求められる資質（3）
具体的な教師像として、それに到達するための方策を検討する
- 【第5回】 教師に求められる資質（4）
I C Tの活用とスキルブラッシュアップ
- 【第6回】 学校の組織内の人間関係や、保護者、地域社会の関係者などのかかわり
教育問題とクレイマーペアレンツに対する対処法
- 【第7回】 講話(現職教員の体験談) ＊スケジュールは変更になることもあります
- 【第8回】 学級経営の理論と生徒理解
- 【第9回】 学級経営案の作成（グループ討論）
- 【第10回】 学級経営上の問題点
- 【第11回】 教材作成（学習プリント、ワークシートづくりなど）と模擬授業
- 【第12回】 教材作成（学習プリント、ワークシートづくりなど）と模擬授業
- 【第13回】 教師に求められる教科指導能力とは
I C Tリテラシーから学ぶ普遍的教科指導力と特徴的教科指導力の違い
- 【第14回】 自己研鑽、研修について
「履修カルテ」を使った個別最適な指導
- 【第15回】 求められる教師の資質能力について
「教職実践演習から学べたこと」
「履修カルテ」の最終取りまとめ

テキスト

各授業時に教材としてプリントと資料を配布する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

発表 20%

課題レポート40%

教職の意義と使命・責任感について、生徒理解についての評価 20%

教育実習の分析と考察 20%

＊教職カルテの最終版を、授業最終回にファイルで提出すること

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。